

「エドゥケーターをすること」ことと「エドゥケーターであること」
2026年4月9日（木）
エドゥケーター

- クリストフ・レミオン、
エドゥケーター
- レオナルド・ダ・ヴィンチ高等専門学校
エドゥケーター部門責任者
2002年よりエドゥケーター
子ども家庭支援分野
アフリカへの教育的滞在
2011年 - 養成校教員、2020年 - 責任者



Haute École
Léonard
de Vinci

エドゥケーターの職業は大きく発展し 専門性が高まっている

- 現在、多くの分野において支援ニーズが高まっており、それらに応えています。
- 歴史的に取り組みられてきた3つの分野（学校、子ども家庭支援、障がい支援）に加え、現在では**20以上の異なる分野でエドゥケーターが活躍しています**。病院、高齢、精神科、メンタルヘルス、移民、刑務所、社会福祉センター、幼児教育、文化・スポーツ分野、依存症、未成年単身移民などです。
- 社会課題のアラートサインであると同時に、エドゥケーターがいかに必要で、有効な役割を果たしているかを示しています。

理論：エデュケーターの定義

- 社会的に脆弱な状況におかれた人や社会から疎外された人々を支援する多くの専門職の中でも、エデュケーターは（予防・支援・個人の成長）において特に重要な役割を果たしています
- 専門的な知識と能力を身につけたエキスパート（3年間の養成課程）であり、任命されて一定期間の任務を遂行し、委任を受け（裁判官命令的または同意による支援）機関としてのミッションの枠組み内で活動します。
- ソーシャルワーカーが行政手続きなどの専門であるのに対し、エデュケーターは良い関係性を築くこと、個人の開花を支える専門家です。
- 一緒に歩き、絆を結ぶスペシャリストです。

エデュケーターの定義

- 法律で定められているエデュケーターの定義は「*特定の方法や技術を用いて、利用者の成長、社会的成熟、および自立を支える者*」（1994年4月29日の法律（1996年4月20日付ベルギー官報）からの抜粋）
- エデュケーターにとって、利用者がウェルビーイングと社会内での開花へアクセスできることが重要です。



エデュケーターは誰と協働しているか

- エデュケーターは常にネットワークの中で活動します。
- ソーシャルワーカー、心理士、精神運動療法士、作業療法士、理学療法士、スポーツコーチ、教師、言語聴覚士、栄養士、セラピスト、医師、看護師などと連携します。
- そして、もちろん、家族とも連携します

エデュケーターは「絆」を育む職人

- エデュケーターという職業は、**繊細かつ特別な専門的姿勢**が求められます。高い**柔軟性、感受性、共感性、そして感情的知性**を必要とします。
- 感情的知性とは頑固さの反対で、**適応能力、自分の考えを疑問視する能力、相手の感情を受け止め言葉で整理する能力**。
- 優れた**傾聴力、観察力、他者への関心、偏見がなくジャッジしない姿勢、想像力と理解力と行動力**そして何よりも、**物理的にも心理的にも共にいること**が求められます。
- 包括的に、身体的、社会的、心理的（感情面、文化面など）に捉えてすべての側面におけるケアが求められます。
- **心理的社会的能力**が特に必要とされます。

心理的社会的能力

<https://akikoawa.com/wp-content/uploads/2025/07/competence-psycho-social.pdf>

心理的社会的能力



エドゥケーターは、社会という実験室における人間科学の研究者

- 社会の中で苦しみを抱えている人についての証人としての役割
- 新たな社会現象の兆しをいち早く察知する役割。例えば学校。
- 休み時間に観察すること：孤立した子ども、けんか、いじめ、仲が悪い状況、誰が誰と遊んでいるか、誰が力関係が上か、それら相互関係を観察し、分析し、理解を試みます。
- 暴力は、誰にも聞いてもらえていない苦しみの叫びである（その裏に、何が隠されているのか？ 殻の内側で何が起きている？）
- 画面とつながる前に、まずは人間とつながる方法を学ばなければならない



スクリーンがもたらす悲劇 学校での禁止

- 0～5歳 – 新たな自閉症の形態が発見されている
- 社会的孤立
- 運動不足
- 子どもはスポーツやアートや子ども同士の相互作用を通じて感情を表現し、フラストレーションと向き合い、反発し、自らを築く
- 子どもの成長には社会的交わりが必要 – 感情を表現することを学ぶこと



すべての子どもそれぞれの感情とニーズがある

- 子どもはそれぞれ別個の歴史、ニーズ、感情があります
- 子どもはそれぞれ、秘められた宝のような輝き、情熱、才能があります
- エducatorは、その人が自身の才能を見つけ、それを生かせるよう手伝う人です
- エducatorは、「その人が自分ならではの選択を行い、自分の歴史を自分で築く過程と一緒に歩く」存在（Gaberan 2003, p. 63）。
- **実在的側面**（利用者が自身が望む姿へと徐々に向かえるよう自分を理解し、自らのリソースを生かす過程を共に歩む）。
- エducatorと利用者の中で時間をかけて築かれる**信頼関係に基づく活動**。

感情の輪

感情を知るシート

悲しみ

原因	失ったもの、別れ、挫折
感じる こと	涙、唇が震える、喉が締め付けられる、 暗い考え、死にたい
求めている こと	慰め、励まし、認めてもらふこと、話すこと 感情を言葉にすること、受け入れられること 抱きかかってもらふ、マッサージ、泣くこと、 乗り越えるための戦略、愛されること



怖い

原因	危険を感じる、知らないものへの不安 安全ではないと感じる
感じる こと	血の流れ、アドレナリン 心拍数が上がる、震える
求めている こと	安心できること、助け、話す 抱きかかしてもらふ、守られる 不安で怖い気持ちを解消する



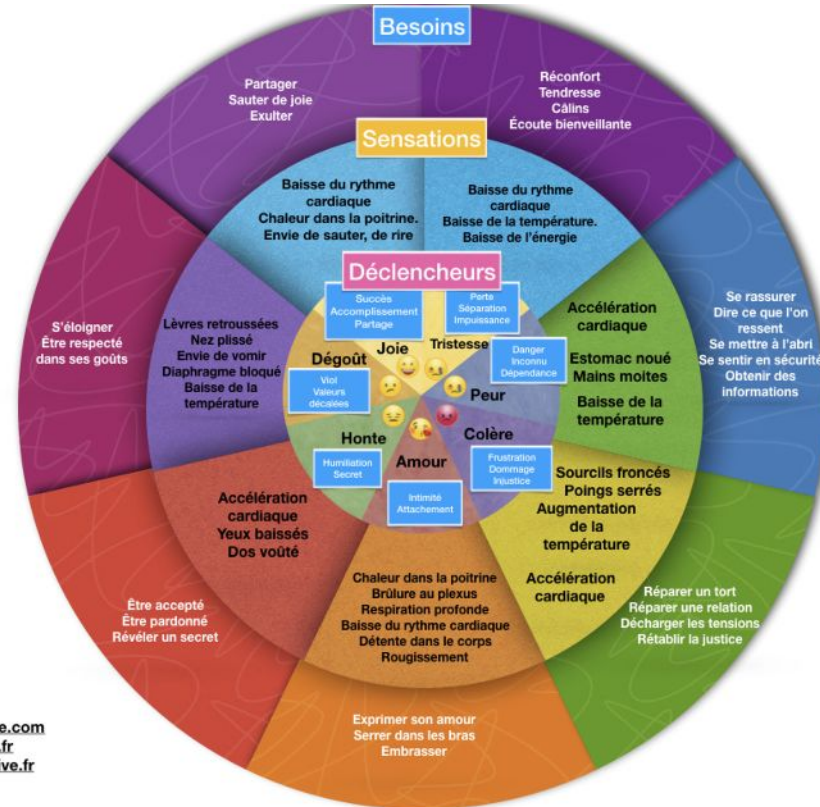
怒り

原因	フラストレーション、理不尽、 無力感、尊重されない
感じる こと	呼吸が速い、みげんにしわ 歯をくいしばる 緊張する、暑い
求めている こと	聞いてもらう、理解してもらう 変えていく、修復する、 エネルギーを発散する 叫ぶ、呼吸する、話す、走る 手紙を書く、一時休止する



喜び

原因	ほめられた、称賛、成功 出会い、感謝
感じる こと	情熱、ゆっくりした呼吸 ウェルビーイング
求めている こと	分かち合い、絆、祝福 踊る、笑う、歌う、抱きしめる 電話する



anti-deprime.com
adozen.fr
papapositive.fr

<https://akikoawa.com/wp-content/uploads/2024/04/talk-about-emotion.pdf>

あらゆる感情は、ニーズを表している

- 悲しみ： がっかりする気持ち、悲しみ、ゆううつ、落ち込み、うつ状態を経て、自殺にまで発展します。
- 足りない、空っぽな状況になります
- 「認められるニーズ」があります
- 「つながり」のエネルギーが必要です

この職業の特徴と注意点

- エducatorという職業は、**理論的・実践的な養成を必要とする、厳しい専門的な質の高さが求められる職業**です
- 「人」に関する「知識」、「方法についての知」（関係構築や相互作用のための教育的ツールを身につけている）、そして「あり方」（資質）が求められます。
- エducatorは、関係性における能力（対人スキル）、エンゲージメント、どんな相手も受け入れられるための余裕、寛容さが求められます。何よりも優れた対人知性が求められます。

この職業の特徴と注意点

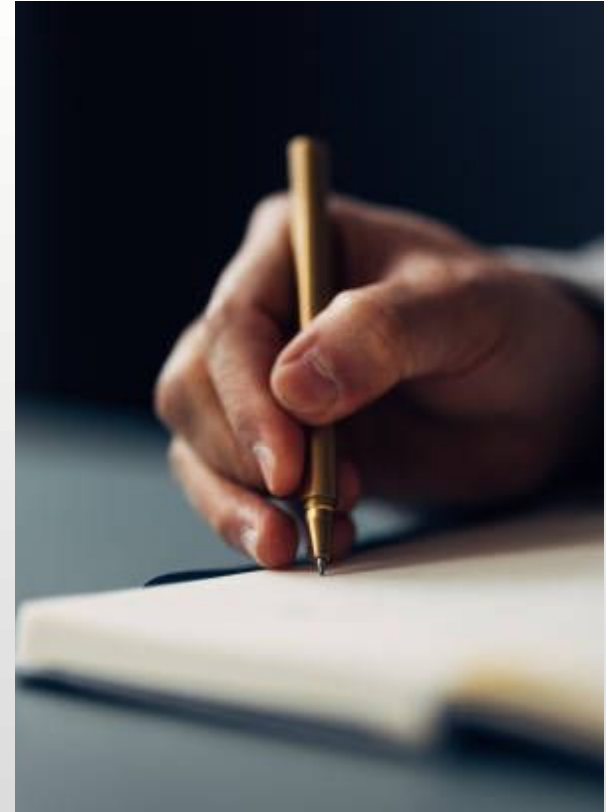
- 常に意識を研ぎ澄まし、注意深くある必要があります。エドゥケーターは関わりを通じて、時には相手の人生に大きな影響を与えたり、人生を大きく変えたりすることさえある職業です。そのため、ツール、姿勢、言動について訓練を受けています（言葉の選び方、しぐさ、声かけ、気にするあり方によって大きな変化を起こす可能性がある）自信や自尊心の回復を支えます。
- エドゥケーターは、相互関係を発展させていきます。関係性そのものがエドゥケーターにとっての仕事の意味です。



-
- ニュートラルな視点で観察する（ジャッジしない、勝手に解釈しない）
 - 仮説を立てる
 - リスクを取る勇気を持つ（適切な先に必ず報告する）
 - 流されることなく意見を表明し考えや信念を貫く
 - 軸を貫く。親をジャッジすることなく、子どもにとって必要なことのためにできることを親と話し合い、一貫性のある明確で確かな姿勢を貫く
 - 利用者のアドボケイトとなり、状況について代弁し、支える

難しさと.....必要なこと

- ソーシャルワークを発展させるためには、変化を起こすことについての強い意欲と情熱が必要。国や同僚による支えも必要。
- **自身の実践について認識し**、仕事について語り、ソーシャルワークで使用するツールがなぜ的確であるか説明し、実践について専門職や一般向けに書いて発信し、良い実践がおこなえる条件を守り、課題について語る能力が必要である（観察するだけでなく、観察を活かすこと）
- ミリタンの（信念を貫きたたかう）、政治的（問題提起する、告発、表明）側面が重要——私たち一人一人がこの職業のアンバサダーです
- 地域内、全国、世界の仲間とパートナーシップを築き、ネットワークを構築する
- 家族と必ず協働する



難しさと課題

- 以前より早急な対応が求められることが、予防やサポートの質を損なっている
- 状況の多様性と複雑さは、傾聴、信頼、そしてネットワーク構築に基づいた、きめ細やかなアプローチを必要とします。しかし、現代社会においては、スピードと即効性を求められます。エドゥケーターが信頼に満ちた環境、いつもいると感じられる安心感、心から出合いえること、これらを保証せずに「急いで」実現することができないことはたくさんあります。
- エドゥケーターとしての活動の必要な前提条件は、関係性におけるつながり、絆が築かれることです。
- エドゥケーターの仕事は、長期的な視点に立って考えます。
- 社会的絆の脆弱化、人間関係の非物質化、社会的なつながりの崩壊が見られる現代社会において、エドゥケーターにとって不可欠なツールである「他者のそばに存在すること」は、確実に保障されなければなりません。

根強い偏見

エデュケーターであるということ



結論

- 「エドゥケーターをする（エドゥケーターの役割を果たす）」ことと、「エドゥケーターであること（私が選んだ職業としてコミットし、体現し、私の中にエドゥケーターの魂を感じている）」は大きな違いがある
- エドゥケーターは情熱とエンゲージメントを要する職業。人間への関心、違いや脆弱さへの関心、一緒に歩くことを選び続けること、頼りとなる人であること、相手にとって地域にとってリソースとなる人であること。
- 画面とつながる前に、まずは人間と「つながる」ことを習得しなければならない！

MERCI！！ ありがとう

- 専門職として良い道が歩めますように！！

